

## 学校評議員会の実施報告書

ホームページへの掲載	
済・未	7月2日掲載予定

### 岐阜県立関特別支援学校

校長 佐藤 秀樹

学校住所 関市桐ヶ丘一丁目2番地

電話 (0575) 22-4238

- 1 会議の名称 岐阜県立関特別支援学校 学校評議員会
- 2 会議の構成
  - 【 学校評議員 】
  - 澤井 基光 関市社会福祉協議会会長
  - 沼田 明仁 四季ノ台自治会長
  - 岡田 泰子 中部学院大学短期大学部教授
  - 大野 美奈子 社会福祉法人平成会レインボーハートフル生活介護事業所  
サービス管理責任者
  - 中島 貴弘 Man to Man Animo 株式会社プロジェクトマネージャー
  - 【学校関係者評価委員】
  - 原 紀子 PTA会長
  - 【 学校職員 】
  - 佐藤 秀樹 校長 田中久仁子 小学部主事
  - 福富 茂美 教頭 堀 英男 中学部主事
  - 林 英和 事務部長 上浦 清彦 高等部主事
  - 旭 秀織 教務主任
- 3 会議の目的 学校運営について地域住民や学識経験者から幅広く意見を聞き、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた活力ある学校づくりを推進する。
- 4 会議の開催 平成30年6月25日(月) 10:00～12:00  
岐阜県立関特別支援学校 小会議室  
会の内容(主な議題等)
  - (1) 授業参観
  - (2) 校長挨拶(学校評議員委嘱)
  - (3) 出席者自己紹介
  - (4) 平成30年度の教育計画及び各学部の取組について
  - (5) 高等部作業学習製品の販売価格について
  - (6) 授業参観の感想や関特別支援学校についてのご意見等
  - (7) その他
- 5 会議の概要
  - 校長挨拶
  - 当校では10月末までの間、外壁工事を行っています。外壁をきれいにさせていただくため、締め切った状態でエアコンを付けながら教育活動を行っています。
  - 岐阜県の「アクションプラン2018」により、4月に西濃高等特別支援学校が開校し、今後可茂地区、東濃地区、飛騨地区の整備が進んでいくこととなります。当校においても中濃特

別支援学校との関係、分教室の在り方の検討に入ると聞いています。総合化していくのか、いつまでこのような状態であるのかなど方針が出てくると思います。また、先週行われた全国特別支援学校校長会では、震災のために大阪の校長先生たちは欠席でありました。ブロック塀のことが言われていますが、防災のことに力を入れていかなければと考えています。評議員の皆様の忌憚のないご意見をお聞かせいただき、学校運営に活かしていきたいと考えています。

## テーマ1 平成30年度の教育計画及び各学部の取組について

### (1) 学校の教育目標、学校経営の方針について（校長）

- ・ 病弱教育が平成27年度からスタートしている。また、中濃特別支援学校分教室も平成27年度から始まり、本年度は5棟の1、2階を分教室の教室として取り組んでいる。
- ・ 本年度、児童生徒数は、54人ということで減少傾向ではあるが、近年、病弱児が増えてきている。高等部においては、不登校の生徒も入学していたり、発達障がい等の二次障害を抱えている生徒も在籍したりしている。教師の専門性を高めていく必要性を感じている。
- ・ 本年度の教育指導の重点（学校経営）として、4月に職員会議で配布している。学校長としての経営に対しての思いを込めたもので、温かな人間関係の中で全教職員が協働して教育目標の具現に徹する活力ある学校経営をしていきたいと考えている。重点として、①温かな人間関係の醸成、②協働による「チーム関特支」の推進、③ワークライフバランスの達成を掲げている。
- ・ ①に関しては、児童生徒間、児童生徒と教職員間、教員間も含めて温かな関係づくりをしていきたい。温かい関係の中で育った子は、厳しい社会に出てもやっていけると考えており、そうした意味でも相手を尊重することを大切にしていきたい。
- ・ ②に関しては、教育目標（社会参加・自立できる人間を育てる）、目指す教師像を共有していくために大切なこととして、「児童生徒が育つ支援と環境」（「主体的・対話的で深い学び」につながる支援と環境）について職員に周知して支援に当たっている。そのためにも、学舎連携、学部間連携を強化して、相互の情報共有とコミュニケーションを大切にしていきたい。
- ・ ③については、ワークライフバランスを達成するための目安として、勤務時間のインターバル（勤務の終業から始業まで）を11時間は空けるように職員会議等で周知している。

### (2) 平成29年度自校評価・学校関係者評価を受けて（平成30年度の改善点）

#### ①学校運営に関すること（職員の時間外勤務の削減と平準化について）

- ・ 退勤簿による労働時間の管理を図っている。
- ・ 「ふれあいまつり」「運動会」「学校祭」の3大行事を縮小・改変し、業務のスリム化を図った。
- ・ 成績評価を年2回にし、回数を減らすとともに、長期休暇中に評価できるようにした。

#### ②教育活動に関すること（交流及び共同学習、ICTの活用、病弱教育について）

- ・ これまでの交流校の他に、近隣の関商工高等学校や中部学院大学、中濃特別支援学校分教室との積極的な連携を図った。また、FC岐阜と連携して行事を行ったり、作業製品のコラボレーションに取り組んだりしている。
- ・ タブレット端末が60台配備されたことで、多くの教師が様々な場面で利用するようになった。
- ・ 学年会で頻繁に情報交換を行って職員間の情報共有・共通理解を図っている。

#### ③その他（卒業生支援について）

- ・ 卒業生の現状を把握、整理し、外部機関とも連携しながら追支援を行っている。

### (3) 小学部、中学部、高等部、寄宿舎の児童生徒の状況、指導の重点、課題等について

#### ①小学部

<重点>

- ・児童、保護者のニーズを踏まえた「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」に基づき、関係者間で共通理解と連携を図りながら、一人一人に応じたきめ細かな指導・支援を推進する。
- ・家庭及び医療機関等と連携して健康管理を図り、健康で安心・安全な学校生活作りを推進する。
- ・体験的な学習や交流学習等を通して、自らの力を十分に発揮して、生き生きと活動する児童を育てる。

<課題>

- ・一人一人の実態把握、学習課題を明確化する。
- ・適切な教育課程、学級編成や学習集団を編成する。
- ・授業改善と蓄積、教員の専門性の向上を目指していく。

② 中学部

<重点>

- ・「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」に基づき、関係者が生徒一人一人の発達課題や学習課題を明確にした支援・指導を推進する。
- ・関係者における共通理解と共通認識を図り、健康で安全な教育環境の整備を推進する。
- ・様々な体験活動を通して、将来の社会参加、自立に向けた進路教育を推進する。

<課題>

- ・生徒数減少に伴う教育活動の在り方を工夫する。
- ・生徒の重度化・多様化に対応する。
- ・他学部との円滑な支援の引継ぎを行う。

③ 高等部

<重点>

- ・豊かな心をもち、自ら学び、主体的に行動する生徒を育成する。
- ・日常的な健康管理や医療的ケアをもとに、健康保持に配慮した個別支援・指導を推進する。
- ・各種の社会体験等を通じ、自己理解を深め、社会参加を目指した実践力を養成する。

<課題>

- ・実態に合わせて教育課程を見直す。また、病弱者へのきめ細かい対応を行う。
- ・多様な保護者や生徒のニーズに対応した進路支援のあり方を検討する。
- ・交流及び共同学習を充実させる。
- ・魅力ある高等部づくりに取り組む。

④ 寄宿舎

<重点>

- ・自分で考え、主体的に行動できる自立心を育成する。
- ・心身ともに健康で、安心かつ快適な寄宿舎生活を支援する。
- ・互いに認め合い、協力できる態度を育成する。

<課題>

- ・有意義な寄宿舎生活を送るために、舎生会活動の計画を立て自主的な活動を目指す。
- ・日本の文化や行事を大切にしたい取組を工夫する。
- ・関有知高等学校家庭クラブとの交流をさらに充実させる。
- ・生徒一人一人の自立に向けた様々な取組を充実させる（鍵付きロッカーの使用等）。

テーマ2 高等部作業学習製品の販売価格について

意見1 どこで売っているのか。

学 校 学校祭で販売をしている。昨年度は関商工の文化祭でも販売した。

意見2 今度、民生委員会中濃大会が行われる。そこで希望があればブースを取りますので教えてください。地域に、外に出ていく経験が大切だと思います。

学 校 平日ということもあるので、検討させていただきお返事させていただきます。

(価格については、全員から資料通りの価格でよいと回答いただいた)

### テーマ3 関特別支援学校についての意見等

- 意見1 校長先生のお話にもあった、ワークライフバランスの取組は、なかなかうまくいかないことも多い。熱意のある先生方が多いと思いますので、大変必要なことであると思います。是非とも働き方改革を継続して行ってほしい。また、企業の一員として生徒さん方のスキル向上に向けたお手伝いができないかと考えている。IT、デザインの面では手伝えることができるかと思うので、機会がありましたらご連絡ください。
- 意見2 高等部の方々には、3年間しかなく、将来に向けた活動ということになっていく中で、実習に向けた取組を先ほどの授業参観でも見させていただいた。練習もかなり行ってきているということを知ることができたので、体験ということではなく、次の実習もあるかもしれないということも踏まえて、ここがよかったよ、ここがダメだったよということをきちんと伝えていくことをやっていきたいし、それが役目なのかなど感じました。あと、障がい者スポーツに関して、体育館もあり道具もあるということなので、ぜひ頑張ってもらいたいと思います。
- 意見3 小学部から高等部までを見せていただき、先生方が非常にきめ細やかな支援をされているということを実感しました。校長先生がお話された温かい学校づくりということで、具体的にどのようなあたたかい言葉掛けがいいのかなど資料に分かりやすく記されていた。こういったものを保護者にも読んでもらうとより一層連携が深まっていくのではないかと感じた。やれることに目を向けていく、自己肯定感を高めていくということが共通して大事であるということを実感させられた。また、地域の人たちとますます交流が広がっており、風通しがよくなってきていると感じられた。ともに共生している、みんなが一緒に生きているということを普通に感じられるということが、互いに学び合えるということにつながっており、地域としても感謝している。
- 意見4 「関特だより」を毎月発行してもらっていて、一人でも多くの方に見てもらおうと努力されている。このことはぜひ続けてほしい。今後の継続に向けて、地域の人は全く関心がないという前提で作られることも一つの視点になるのではないと思う。目線がいくような、分かりやすそうな内容にしておくことも大切かなと思う。浅く広くという視点も大切かなと感じる。みんなが参加できる行事があるのであれば、号外で出したりしてもいいのではないかなと思う。
- 意見5 子どもは成長するという前提で教育されている。それをあそびの中から身体を動かすということ大切にされていた。身体を動かすことは子どもにとって楽しいことで、プールなど、よろんで身体を動かしてやっている。それを子どもの成長に合わせて取り組んでいるということがよかった。体験学習もいいことであり、生きる力の育成につながっていると感じた。地域社会は理解が難しいということがあるが、障がいがある人が理解してもらうためには外に出ていくことが大切である。もっと外に出ていってもいいと思う。自分たちから動くことが大切であると思う。だんだん重度の子が増えていっているので大変かもしれないが、生きる力を育んでほしい。
- 意見6 交流会で相手校の生徒さんが関特別支援学校の作業を体験するということはとてもいいことである。その中で、いつもは支援してもらっていることが多い子どもたちが教えるという貴重な体験をしている。様々な体験が子どもたちにとってよい刺激になっていると思う。感謝しています。

## 6 会議のまとめ（校長より）

特別支援学校というのは、共生社会を作っていく上で、大きな役割を果たさなくてはならないんだなと改めて思いました。そして、ここにいると共生社会を実現していくことの大切さが当たり前になってしまっていますが、まだまだ当たり前ではないという状況があります。そういう意味で、情報発信、分かりやすくしていくなど、我々が果たすべき役割がもっともっとあるのではないかなと思います。関商工との交流をとっても、お互いのいいところを見つけ合っていて、関商工の生徒さんの純粋な目

で感動した内容が感想で書かれていました。こういう子どもたちが次の社会を担っていくことになる。こうした取り組みを大切にしていこうということが次の新しい社会を作っていくと思っているし、そういった使命を改めて感じました。本日は、本当にありがとうございました。

※今回の学校評議員会の内容について、当校のホームページに掲載させていただくことを全出席者から了解を得た。